

1 去勢域前立腺癌症例に対する漢方薬の Aging males' symptom スコアへの影響について

独立行政法人 国立病院機構 神戸医療センター泌尿器科¹⁾
センプククリニック²⁾
三谷ファミリークリニック³⁾
あきば伝統医学クリニック⁴⁾

大岡 均至¹⁾、千福 貞博²⁾、三谷 和男³⁾、秋葉 哲生⁴⁾

【目的】

去勢域に達した前立腺癌症例に対する補中益気湯(以後TJ41)の Aging males' symptom (AMS)スコアへの影響に着目し検討した。

【対象と方法】

血清テストステロン50ng/dl未満を達成した前立腺癌症例で、PSA・転移病巣の進行がない(CR)142症例、72症例(74.1±8.9[平均±SD]歳、テストステロン値21.1±3.8ng/dl)に対しては、TJ412.5g.2食前を24か月継続し(A群)、70症例(70.9±12.1[平均±SD]歳、テストステロン値23.7±4.3ng/dl)に対してはTJ41無投与とした(B群)(年齢、テストステロン値で有意差なし)。検討項目は1)TJ41治療開始前のAMSスコア(身体的因子・心理的因子・性機能因子・総得点)、2)24か月間経過後のA群・B群のAMSスコアの推移である。

【結果】

処方前と24か月後の検討項目の変化は、A群:1)身体的因子19.4→+14.2, 2)心理的因子27.5→21.5, 3)性機能因子23.0→21.0, 4)総得点70.1→59.1(3)以外有意な改善あり、 $p<0.001$, Wilcoxon signed rank test)。B群:1)身体的因子18.3→21.8, 2)心理的因子26.9→28.3, 3)性機能因子21.8→23.0, 4)総得点69.8→74.8(3)以外有意な増悪あり、 $p<0.001$, Wilcoxon signed rank test)。24か月後のA群とB群の各因子の比較:1)身体的因子14.2 vs.+21.8, 2)心理的因子21.5 vs. 28.3, 3)性機能因子21.0vs. 23.0, 4)総得点59.1 vs. 74.8(3)以外A群が有意に優れる。 $p<0.001$, Mann-Whitney U-test)。

【考察】

今回の検討では、去勢レベルにある前立腺癌症例に対するTJ41の投与によって、AMSスコアの身体的因子・心理的因子を有意に改善することが示された。特に、筋力低下等は避けられない状況下で身体的因子の改善は極めて興味深い。

【結語】TJ41は前立腺癌内分泌症例の身体面・心理面に有効な方剤である。